

103-127

問題文

高血圧 ^a	耐糖能異常 ^b	相対危険度 ^c	
		脳血管性認知症	アルツハイマー病
－	－	1.0	1.0
－	＋	4.2*	4.6*
＋	－	4.1*	0.9
＋	＋	5.6*	2.3*

^a 収縮期血圧 140 mmHg 以上、又は拡張期血圧 90 mmHg 以上、又は降圧薬内服者を（＋）とした。

^b 空腹時血糖値 115 mg/dL 以上、又は食後 2 時間以後の血糖値 140 mg/dL 以上、又は随時血糖値 200 mg/dL 以上、又は糖尿病の病歴ありの者を（＋）とした。

^c 高血圧及び耐糖能異常がいずれも（－）の群を基準群（1.0）として表示した。

* 基準群と比較して有意差あり。相対危険度の 95% 信頼区間が 1.0 を含まない場合に有意とした。

- 1. 耐糖能異常は、単独でアルツハイマー病の危険因子となる。
- 2. 耐糖能異常がない場合、高血圧はアルツハイマー病を抑制する因子となる。
- 3. 高血圧及び耐糖能異常は、いずれも単独で脳血管性認知症の危険因子となる。
- 4. 脳血管性認知症は高血圧の危険因子となる。
- 5. 高血圧はアルツハイマー病に対する耐糖能異常の影響を解析する上で、交絡因子となる。

解答

2, 4, 5

解説

選択肢 1 ですが

表の 1 行目と 2 行目を比較すれば、耐糖能異常の有無によりアルツハイマー病の相対危険度に有意差が見られます。よって、単独で危険因子となると考えられます。

選択肢 2 は誤っています。

1 行目と 3 行目を比較すると、高血圧の有無により、相対危険度に有意差は見られません。

選択肢 3 ですが

表の 1 行目と 2 行目 及び 1 行目と 3 行目を比較すれば、高血圧 及び 耐糖能異常はそれぞれ単独で、脳血管性認知症の危険因子となると考えられます。

選択肢 4 は誤りです。

この表から判断することはできません。

選択肢 5 ですが

交絡因子とは、因果関係「AならばB」という関係を考えた時に AにもBにも影響を与えるような別の因子Cのことです。つまり、「耐糖能異常があればアルツハイマー病に発症しやすい」という関係において、高血圧ならば耐糖能異常、かつ、高血圧ならばアルツハイマー病に発症しやすいという場合、「高血圧」が交絡因子です。高血圧であれば耐糖能異常とはいえません。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2,4,5 です。

類題